



これまで積み上げてきた幼・保・こ・小・中の連携を基本方針としてまとめ、園・学校・家庭・地域が一体となり、15年間の切れ目のない、より質の高い教育・保育の充実を図る

乳児保育

◎愛着関係の形成

非認知能力の育成

【受け取る力】

- ・応答的なかわり
- ・話し手の目を見る
- ・安心できる人が傍にいる

【伝える力】

- ・思いをしぐさや言葉で表す
- ・あいさつや返事をする

各園（岸幼稚園・向原保育園・やまきたこども園）

※推進園：岸幼稚園 やまきたこども園

・3園で「山北こども研究会」を構成し、「自然と出会い体験する中で豊かな心を育む」を共通のテーマに研究を推進する。

・外部講師として、元早稲田大学教授 露木和男氏を招聘してのフィールドワークや、お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション寄附講座教授、お茶の水女子大学こども園アドバイザー 宮里暁美氏を招聘して公開保育・研究会を開催した。

・小学校との滑らかな接続をめざし、小・中学校の授業公開、研究会への参加と行事等とおして、職員間や幼児・児童・生徒の交流を積極的に行う。

研究テーマ

社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きることができる人間力と社会力の育成



めざす子ども像、具体的な姿を全職員で共有して、研究を進めています。

<めざす子ども像 5歳>

- 明るく元気で思いやりのある子
- 自分で考えて表現する子
- 自然に親しみ、地域とのふれあいを大切にする子

幼児教育

◎人と積極的に関わる力の育成

非認知能力の育成

【受け取る力】

- ・話し手の目を見る
- ・反応する
- ・最後まで聞く

【伝える力】

- ・あいさつや返事をする
- ・遊びの中で、知っている言葉を使い自分の気持ちを伝える
- ・困ったことを伝える

<めざす子ども像 15歳>

- 意欲を持ち学びつづける子
- 人とかわる力や思いやりのある子
- 運動に親しみ、健康で笑顔あふれる子
- 自らすすんで自己表現できる子
- 国際感覚とともに郷土に愛着をもつ子

小学校教育

◎対話力の育成

- 非認知能力育成の継続
- 主体的に学ぶ力の育成

【受け取る力】

- ・相手の話を共感的に最後まで聞く
- ・相手の考えや意図を理解しようとする
- ・相手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめる

【伝える力】

- ・自分の立場を明確にし、根拠や理由をつけながら発言する
- ・相手に伝わりやすいように話す
- ・友達と考えとつなげて話す

小学校（推進校：川村小学校）

・研究テーマ「人権を尊重し、互いに認め合い励ましあって、ともに伸びていく子供の育成～子どもとともに創る授業～」を設定し、生活科・社会科を中心に子どもが主体となる学びを支える授業、対話的な学びを生かす授業づくりをめざす。

・外部講師として元早稲田大学教授 小林宏巳氏を招聘して授業研究を開催した。

中学校教育

◎社会的表現力の育成

- 育まれてきた非認知能力を社会で生かす思考力・判断力・表現力の育成

【受け取る力】

- ・論理の展開などに注意したり話の展開を予測したりしながら聞き、自分の考えをまとめる
- ・聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりする

【伝える力】

- ・根拠をもとに自分の立場を明確にし、相手が理解納得できるよう論理の展開を考えて説明する
- ・場の状況に応じて言葉や表現を工夫し、分かりやすく伝える
- ・合意形成に向け、互いの発言を生かしながら話し合う

中学校（推進校：山北中学校）

・研究テーマ「山北総合プランづくり～汎用的な山北SCの活用をめざして～」を設定し、各教科で山北SCを汎用的に活用した授業を実践し、そこで高められた資質・能力を総合的な学習の時間に活かすことをめざす。

・外部講師として、元帝京大学小学校相談役 矢野英明氏を招聘して授業研究を開催した。



社会の中で他者とよりよく関わりながら、自分らしく生きる山北の子ども

今年度の実践より

○研究推進特別会

「山北スタンダードカリキュラム 受け取る力 伝える力」「人権教育」を視点に、青山教授を招く

【協議より】

・リアルな学びをめざしたい。

・実体験の中の感情がリアルな学びにつながる。

・一貫教育により子どもたちが育まれている取り組みや様子を保護者にも周知し価値を伝えていきたい。

・学齢が下の、学年、校種の子どもたちの学ぶ姿を見ることができ、育ちの過程を知ることができる。それが教師の深い児童生徒理解につながる。



今年度研究推進の重点

●0歳から15歳までの一貫教育・保育のさらなる推進

*園・学校研究の深化
*持続可能な園・学校間交流事業の促進

*山北スタンダードカリキュラムの活用促進と見直し
*11分野のカリキュラムの活用と見直し
*人権教育カリキュラムの授業研究

次年度の研究の方向

●0歳から15歳までの一貫教育・保育のさらなる推進

*園・学校研究の深化
*持続可能な連携・交流のあり方検討

*山北スタンダードカリキュラムの活用促進と見直し
*カリキュラムの活用促進と見直し
*家庭・地域への発信



・各園学校の公開保育、研究授業、協議にも異校種から参加し情報交換ができた。
・中学校の教師が、各園と小学校で出前授業を実践した。